

インド農村の長期変動に関する研究

Long-term Trends of Indian Villages

水島 司 (MIZUSHIMA TSUKASA)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授



研究の概要

インドは、今日、劇的な変化を経験している。その変化の方向を見定め、近い将来に深刻化するであろう社会経済問題を見通し、その処方箋を見出すことは、21世紀においてインドが世界でのプレゼンスを急速に高めることが必至である以上、我々地域研究に携わる者の最も重要な課題である。こうした課題に応えるには、多面にわたる長期的な情報の蓄積と分析の積み重ねが不可欠である。しかし、インドに対する我が国での研究体制は不備であり、研究手法・研究成果の蓄積体制、研究体制の整備と刷新が急務である。本研究は、このような危機意識をもって、歴史学、経済学、農学、地学その他の研究者が集まり、インド農村の長期変動の実態を解明し、インドが直面する問題の処方箋を導きだそうとするものである。

分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：インド、GIS、農村、長期変動

1. 研究開始当初の背景

1991年の経済自由化政策への大転換を経て、インドは目覚ましい経済成長を遂げてきた。この高度成長が、経済自由化政策の結果であるという従来の解釈は、しかし、厳しい批判にさらされている。むしろ60-70年代の緑の革命による農村諸階層の所得上昇と消費市場の拡大こそが重要な経済成長推進力となっているという、通説とは逆ベクトルの因果関係が強調されるようになった。

このようなインドの経済自由化政策の評価をめぐる議論は、しかし、インド社会が、その深層においてどのような変化を遂げ、どのような未来への選択肢を有しているのかについての長期的分析なしには空疎な議論に終始せざるをえない。このような状況への危機意識から、本研究は、インド社会の大きな部分を占める農村を対象として、その長期変動を解明するために開始された。

2. 研究の目的

激動するインドに対する我が国での研究体制は不備であり、研究手法や研究成果の蓄積、研究体制の整備と刷新が急務である。また、現在の目に見える変動を、長期の変動の中に位置づけて変化の質を検証しなければならない。本研究では、こうした短期・長期のインド農村の変動に関する各種資料を収

集し、そのデータベース化を進めると同時に、インド全域にわたるGIS(地理情報システム)ベースマップを作成し、それを利用することによって変動を可視化する。そして、それらの作業を通じて蓄積されたデータを、異なるディシプリンを有する研究者が協力して分析することにより、変化の質と将来への展望を得ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、インドを対象とする地域研究者と自然科学系の研究者が共同する。そして、インド農村の長期変動の具体相を、時間と空間をそれぞれマクロ(長期・広域)の分析とミクロ(短期・事例)の分析を交差させることで解明し、さらにそれらを、GISを採用することによって総合化するという方法をとる。

4. これまでの成果

本研究では、当初の目的にしたがって、具体的な作業として、各種データ・資料の収集とデータベース化、GIS化処理、データ分析の三つを掲げた。

まず、各種データ・資料の収集については、学校教育、農村における教育普及と経済発展、毎年のサブ・ディストリクト単位の土地利用統計、農村貧困世帯に関する統計、農村部で

の貧困、消費や雇用失業についての全国標本調査、工業・製造業センサス、灌漑センサス、人口センサス、および、環境関連の降雨・水質・水収支関連データを入手した。これらによって、本研究に必要な大規模統計をほぼ整えることができた。また、長期分析に必要な植林地期の資料についても体系的に収集しつつある。

データベース化に関しては、オリジナルがデジタル・データで提供されているものについては、2001年センサスの空間コードをデータに連係させる作業を進めている。また、印刷、手書きのものに関しては、入力作業を行い、Season and Crop Report (1991年以降)、1871年センサス、村落土地台帳、1901~51年雨量統計をはじめとする多くの資料のデジタル・データ化を完了させた。

GIS化処理については、GISベースマップの作成が全ての基礎にあるが、地名その他の詳細な情報が記述されている5万分の1地形図(以後トポシートと略記)を、英国図書館、インドを通じて入手し、作成を進めている。

このような準備を行いながら、早い段階で、2001年センサスで用いられている空間コードと対応した行政村単位のベースマップを用意し、さらに、その利用を円滑に進めるためのソフトウェアを開発し、ウェブ上に掲載した。これにより、デジタル・データ化されている各種統計データに、2001年センサスで利用されている空間コードを与えることが格段に容易になった。この行政村レベルまでのベースマップではカヴァーされていない自然村レベルの地名が使われているデータをどう処理するかという問題が残されたが、それについては、インド亜大陸を覆うに必要な4,500枚のトポシートのうち、インド政府の制限により禁止措置がなされているものを除く3,000枚前後を入手し、そこに記載されている全自然集落に位置コードを与えてベースマップ化し終えた。禁止措置がなされている国境および海岸線から60マイル以内の地域については、大英図書館所蔵の100年前に作成され、現在の禁止措置に拘束されない古地図の入手を手配してベースマップ化の準備を進めると同時に、それでも埋められない地域に関しては、既に作成済みの行政村レベルまでのベースマップと合体させる作業を行っている。

GISベースマップを利用したGIS化処理に関しては、個々の研究分担者によって既に論文や学会発表などによって実践されてきているが、それらとは別に、歴史空間情報のデータベース作成とウェブへの掲載、検索処理のための対応をはじめた。

次にデータ分析であるが、初年度にデリーおよび韓国においてインドの第一線研究者を招いて国際会議を実施し、研究期間全体の研究課題について検討した。その後、年に数

回のトピック別の研究会や「インド農村社会変容の地域的シナリオ：フィールド調査から考える」シンポジウム、「現代インドの社会変動と産業発展」シンポジウムなどを開催し、データ処理の手法、分析結果の理論化、成果の報告を行った。また、各分担者は、それぞれ、日本南アジア学会大会、現代インド地域研究拠点国内大会、ジャワハルラルネルー大学での国際シンポジウムなど、内外で研究報告を行った。

5. 今後の計画

研究開始以来行ってきた研究を継続すると共に、5巻本の『激動のインド』を平成25年度からの刊行を目指して準備中である。

6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)

Yoshifumi Usami, "A Note on Recent Trends in Wage Rates in Rural India," *Review of Agrarian Studies*, Vol.1, No.1, 2011, pp.149-182.

黒崎卓「インド、パキスタン、バングラデシュにおける長期農業成長」Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series ; No. 125, 2010, pp.1-30+Appendix.

佐藤隆広「インド製薬産業における生産性ダイナミクス：「年次工業調査」の個票データを利用して」(上池あつ子・A. Aggarwalと共著)『国民経済雑誌』第205巻第2号2012年 pp.51-72.

Haruka Yanagisawa, "Village Common Land, Manure, Fodder and Intensive Agricultural Practices in Tamil Nadu from the Mid-Nineteenth Century," *Review of Agrarian Studies*, Vol. 1, No. 1, 2011, pp.23-42.

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~india-s/index.html> (科研ホームページ)

<http://newspat.csis.u-tokyo.ac.jp/placefinder/> (地名検索ソフトホームページ)

<http://www.rieb.kobe-u.ac.jp/users/takahiro/statadic.html> (統計ソフト Stata 利用辞書ファイル)